

大野小学校学校運営協議会だより

「みんなでつくろう幸せな学校」



令和 6年 7月 25日

自ら進んで学ぶ子 自分を高める子 互いを認め合える子

第2号

下貝塚中ブロック学校運営協議会を開催いたしました！

夏休みが始まりました。個人面談期間を利用して、午前中にサマースクールを4日間実施しました。対象は全学年、それぞれ45分間のスクールでした。先生は、市川東高校と市川高校の生徒さん、毎日10名ほどがボランティアとして参加しました。お兄さんお姉さんたちが熱心に教えてくださったので、大野っ子も毎日一生懸命学習に取り組みました。

下貝塚中ブロック学校運営協議会は、昨年度に引き続き2回目の開催となります。

前回のテーマ「自校の長所と課題」「小中連携について」の意見をまとめ、次ページ以降に記載しました。その中から、今回は小中連携を中心に話を進めました。委員の皆様、ご協力、ありがとうございました。

【第1回下貝塚中ブロック学校運営協議会概要】

《日 時》 令和6年 7月 25日(木)

9時30分～10時30分

《場 所》 大野小学校 体育館

《次 第》 ○第2回学校運営協議会(学校ごと)

○地域の健全育成活動について紹介

下貝塚中ブロックコミュニティクラブ

代表 埜田 雅弘 様



キャンプ、海釣り、秋祭り、クリスマス、凧揚げなど、中学・高校生のボランティアさんとともに、『遊び』を通して地域の子どもたちを育てていくコミュニティクラブの活動について、紹介していただきました。



ブロック共通のとりくみについて

下貝塚中・宮久保小・大野小・北方小

4つのあたりまえだけど大切なこと

- 気持ちのよいあいさつをしよう！
- 時間を守ろう！
- 話を静かに聞こう！
- そうじは一生懸命に取り組もう！

○ブロック共通の取り組みについて(学校グループで協議)

ブロック共通の取り組みについて、各学校から出た意見です。

- ・普段の交流が大切。中学生が、同じ地区の弟妹のような意識が持てるとよい。 話すも大事、聞くも大事
- ・「4つのあたりまえだけど大切なこと」を、小中交流しながら守ることができるとよい。
- ・「あいさつは、目を見て、元気に、自分から!!」 目を見て話す、うなずきながら聞く
- ・「時間を守ろう」→「時間を大切にしよう」
- ・「そうじは一生懸命に取り組もう」→「整理整頓を心がけて、気持ちよく生活をしよう！」
- ・「身の回りの環境を整えよう!」「学校をきれいにしよう」「清潔な生活を心がけよう」
- ・挨拶は、「誰に対して」「場に応じた挨拶」

令和5年度 下貝塚中学校ブロック合同学校運営協議会グループ討議の内容

テーマI 「自校の長所と課題」

長 所	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・地場産業としての梨農家、担い手の育成（JA 経済センター） ・PTA はボランティア制にしている。 ・子供たちはのびのびとしており、よく声をかけてくれる。 ・教師と子供のつながりが濃い。 ・授業の工夫をしている。 ・生徒への目が行き届いている。 ・夏祭りを楽しみにしている。 ・元気があり、挨拶が徹底できている。 ・子供たちも先生も楽しそうである。 ・生徒がまじめ ・植栽係ができ、地域と協働している。 ・学校と自治会が回覧している。 ・社会的ルールを意識できる子が増えた。 ・登校時間帯の見守り（ボランティア、高齢者）が多い。 ・不審者が減った。 ・市川学園の生徒が教えに来る。 ・JA、市川学園、北方小で除草作業。 ・自治会が子供との信頼関係を作るので安心。 ・自治会、社協の方、挨拶運動行う。（月一回） ・挨拶運動や見守りの人を子供たちに紹介する機会を。 ・役員にならないと学校の様子がわからない。 ・顧問が変わると部活のレベルが変わる。 ・幼稚園のつながりが強い。 ・自然が豊かで、子育てする環境が整っている。 ・学校現場で違憲が活発に言える。 ・教職員同士、話しやすい。 ・支援学級の子と触れ合うことで互いを尊重したり、やさしさがはぐくまれたりする。 ・子供たちのエネルギーを受け入れるだけの受け皿（部活動、地域クラブ活動）がある。 ・縦割り活動で学年を超えて活動することが多い。 ・ICT 推進校、モバイル授業多い。宿題もデータで提出。 ・能力別授業できめ細やかな支援。 ・PTA やおやじの会のパワーがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道が狭く、抜け道として利用するため交通量が多い ・自転車や子供たちが危ない。 ・熱中症対策 ・トラブルが深刻化する。 ・SNS の利用の仕方。 ・子供は満たされない思いが募ると荒れ始める。 ・下校時間の不審者が心配。 ・マスク生活の弊害（中学生、顔を見られたくない。） ・はみ出す子もいてもよく、みんなでフォローすればよい。 ・一人だと挨拶できない。 ・仲間に入れない子が、相手をビービー弾で打つ。 ・家ではゲーム。 ・見えないところで孤立している子がいるのでは。 ・挨拶運動の回数を増やしたい。 ・下貝ブロックのキャラクターを作ってみては？ ・北方小は少人数の良さがあるが、中学校に行くと負けてしまう。小学校から交流するとよいかも。 ・先生の人手不足（教務、教頭が担任） ・中学校区が複数あるので、町会からすると祭り、社協などの活動が難しい。 ・運営協議会委員の立場や年齢のギャップがある。 ・不登校、配慮を要する児童の割合が多い。

テーマ2 「小中連携について」

- ・オンラインで授業交流
- ・陸上部の活動を下中で
- ・下中のおはなし会の方を小学校に
- ・中学校の運動会で小学生が選抜リレーに出場
- ・学校内でも縦割り活動を
- ・子供たちが一緒にできること。
- ・中学校の環境に早く慣れさせるには。
- ・不登校、教室に入ることができない生徒への対応は難しい
- ・家庭環境、近隣住民の声掛けの大切さ。
- ・先生を入れ替える
- ・校外学習を合同で
- ・運動会を一緒にやる
- ・挨拶運動の合同開催（日時を統一して）
- ・小中だけでなく、幼稚園や高校も一緒に考える。
- ・中学校の部活体験
- ・6年生の中学校体験交流、部活見学
- ・BCC に中学生をボランティアで。
- ・下中で BCC のイベントを
- ・ブロック運営協議会を定期的に実施
- ・コーディネータのアクション
- ・学校地域連携推進課に積極的に動いてもらいたい。
- ・中学校は青パトをなぜ地域に任せないのか。働き方改革に寄与したいのに。
- ・下中の生徒が各校に伺って話をしている。
- ・下中オープンスクール
- ・各校での課題を洗い出して、共有していくべきではないか。
- ・体育祭や文化祭などのイベントを一緒に行う（リモート可）
- ・小学校同士の交流、先生の出前授業
- ・合同引き渡し訓練
- ・相互授業参観
- ・PTA ブロック協議会で各校の課題を共有。